



Pick Up News

武漢のニュース、横浜クルーズ船での新型コロナウイルス感染拡大を対岸の火事と見ていた1月。振り返ればコロナで始まり、コロナで終える1年でした。そのような中、多くの新生を迎えて建築学部がスタートできたことが建築学科としては一番のニュースでした。慣れないオンライン講義に皆さんしっかり対応してくれて乗り切れた1年でした。心から感謝いたします。M2、4年生は修了・卒業のための追い込み。悔いの残らない学生生活を送って下さい。3年生は就職活動が本格化します。院進学も含めて、あらためて目標を定めましょう。1〜2年生は進級に向けて、自らの状況をしっかりと見つめて対応して下さい。年末年始、今年は静かに過ごす時間になることでしょう。身体に気をつけて、またしっかり休んで、2021年を迎えましょう！1年間ありがとうございました。今月は多くの学生の声・感想を集めました！

祝 宅建士合格！

吉岡徹君(M2中村研)：合格したことは素直に嬉しく思っています。また、協力、応援していただいた周りの方々には頭が上がりません。とても感謝しています。今後は、就職先でこの資格を活かしていくことと共に、一級建築士の資格取得も視野に勉強と仕事をがんばりたいです。田中翔太郎君(M2石井研)：コロナの影響により、試験勉強の時間が取れたため、合格に繋げることができたと感じています。実際には十分な勉強時間を取れることは少ないため、計画的な勉強がとても大切だと感じました。また、設計製図試験では、5時間という短い時間の中で、図面を全て書くことはできないのが自分にとってとても難しかったです。周りに左右されず、自分のペースで試験日までできるように勉強や製図をしました。合格することができると嬉しく感じています。小野寺祥君(M2竹内研)：二級建築士の学科試験はひたすら過去問を解いて、解けなかったものを分野ごとにリストアップし、それを反復で解いていく中でさらに自分の得意問題と弱点を明確にして取り組みました。その中でも得意問題ばかり取れていると不安なところなので、比較的簡単な問題を抜き、自分ではできるとモチベーションを上げながら取り組みました。製図に関しては、線1本1本に意味があるので、その線はなぜ描くのかを意識して練習しました。試験までなかなかタイトなスケジュールでしたが、自分が合格したというイメージを常に持って取り組むことが合格するために重要です！

祝 二級建築士合格！

大畑翔君(3年生)：私が宅建試験を受けるのは今年で2回目でしたが、無事に合格することができてよかったです。1回目の試験でできなかったところや弱点だったところを勉強直し、できるだけ繰り返し過去問を解いたので合格することができたのだと思います。千葉朱輝人君(3年生)：私は初めての宅建物取引士の試験ということもあり慣れない中での勉強でしたが、独学で合格することができました。友達と一緒に勉強する事で励ましながら5ヶ月間の勉強を続けることができました。今後、新たな資格にも挑戦していきたいと考えています。三品亮祐君(2年生)：私は短期集中型でWeb講義とアプリを活用しました。試験では権利関係や宅建業法など慣れない法律の勉強に苦戦することも多々ありましたが、無事に合格することができました。この経験を活かし、建築士や施工管理の資格が取得できるよう勉強に励みたいと思います。吉澤大翔君(2年生)：私は教科書と過去問の反復勉強を行い、本番では9割を取ることができました。法改正などで悩まされましたが無事合格できてよかったです。今後は簿記やTOEICの資格取得のため、日々精進していきたいと思っています。このほか1年生の村山拓弥君も合格しました。おめでとうございます！

現場見学会開催



清水建設東北支店様のご厚意で、建設中の新社屋の現場見学会を開催しました。40名の学生が参加しました。設計意図や周辺の建物との関連性などとても貴重なお話を聞かせていただきました。実際に現場での作業を見させていただいたことはとても貴重な経験でした。(1年今野楓雅) 就活について考えるべき時期に自分の進路の一つとしてあった企業の現場見学ができ、具体的にどんな感じで作業を行っているか肌で感じる事ができてよかったです。一流企業である清水建設では、建設中の自社ビルで多くの工夫をされていた。構造はハイブリッド構造で、免震の役割をしているゴムを1階から見るとような造りにしたり、環境面の考慮などしっかりしていた。現場で働く人からとても働きたいという言葉を聞けたのでこれからの就活に役立てていきたい。(3年伊藤大貴) 小さい頃から清水建設に興味がありました。特に、環境アラインドの話がすごく興味がありました。清水建設の会社の人達も優しく、明るく、そしてかっこよさも感じました。回の体験は本当に大きなものとなりました。コツコツ頑張る清水建設さんに入社できるくらいまで頑張ります。(1年芦野通人)

東北工業大学 建築学部

Lecture for young architects

6

照明デザイナー 戸恒浩人

シラスライティングオフィス

光がつなぐ人。街。空間

日時：12月12日 ± 14:00-15:30
対象：本学学生 + 申込者 (先着100人)

毎月、国内外の第一線で活躍する建築家・専門家にいるオンラインレクチャー開催中

建築学部 2020
Lecture for young architects
東北工業大学テクノフォーラム

Lecture for young architects!

私は、2年前にも戸恒さんの講演を聞かせていただいて、非常に刺激を受け、その後自分でも光について学ぼうと照明を作ってみました。今では、コンペで入賞したり、個展を開いたりしています。あの時の講演会があったからこそ、今色々挑戦できています。(中略)照明は非常に人を惹きつけるものです。それが映えれば良い、明るければ良いと簡単にできるものではなく、しっかりと芯を持ってそれを具現化するというのが大切だと学ぶことができました。(3年五十嵐聖人) あらためて気づかされたことがあります。相手を共感させ納得させるためには、どういった主旨からその建物や空間を創り出したか、という設計者側の思いや依頼人(施主)の思考を大切にすることの重要性です。(中略)私たちが学生へ向けたメッセージの中にあります、実際にまちへ赴き建物を見ること、足を運ぶことが大切という点です。これからも立ち止まるような良い建築物に出会いを求め、まちを散策し体感していきたいと思っています。(M1千葉百華)

戸恒さんに見せていただいた写真全てが綺麗でかつよくて、建築とともにあるこの仕事に憧れました。戸恒さんがおっしゃっていた「空間を綺麗に見せる光の位置」は、自らの経験なのか、それとも機械で求めることができるのか、気になりました。光があるか無いか、光が何を私たちに伝えるのか、光があることの美しさを感じた光がありました。そして、建築自体が光っているように見える光のマジックを実際に自分の目で見てみたいと思いました。(参加した高校生から)

Pick Up Lab. 生産・材料系分野に属している佐々木研究室は、今年度からスタートし、10月には一期生となる3年生が9名入りました。

研究室の整備なども学生に主体的に進めてもらうようにしています。対面でのゼミ研修もスタートし、研究方法や先行研究レビューなどを進めています(写真1)。海外の建築生産システムや、外国人の建設就労制度や技能教育(写真2)について研究している研究室で、今年は現地調査などの機会も限られている状況です。コロナ禍で海外へ向かう機会がなくなっていますが、落ち着いて海外調査が出来る時まで、一つ一つ出来ることを進めたいと思います。



写真1 ゼミ研修の様子



写真2 海外の建設技能者



2年 小林 眞子 さん
宮城学院高校 出身

Pick Up Student

大学で建築を学び始めてからもう少しで2年が経ちます。とてもあっという間のように感じましたが、最初は分からないことばかりで、授業にもついていけないことも不安だったのを思い出します。ですが、新しいことを学び、知識を得ていくことはとても楽しいことだと感じています。今年は以前のような生活とは違って授業もほぼオンラインとなり、慣れないことも多くありました。しかし、目の前のことに着実に取り組み、小さな目標でもいいので、それに向かって努力を怠らなくすることが大切だと感じました。来年は3年生になるため自分の将来像をしっかりとイメージし、常に向上心を持って悔いのないように行動していきたいです。



1年 田中 堅太郎 さん
鶴岡南高校 出身

Pick Up Student

私は普通科高校出身で、始めは専門科目の講義についていけないか心配でした。しかし、基礎的な部分から友人と共に学んできたことで、専門的な知識の獲得に繋がりと、建築学に没頭していききました。特に、設計という分野の講義では、実際に町で活躍されている建築士の方々とのお話を重ねることで、創造力を養うことができています。建築学は、幅広い分野から成り立っており、自分の得意なことや得意なことが明確に見えてくる学問です。将来、私が1級建築士として建物の設計に携わるために、得意なことから逃げず、これからも友人と一緒に乗り越えていきたいです。そして、今はコロナ禍で大変な時期ですが、将来を見据え、力をつけていきたいと思っています。